

乙訓圏域障がい者自立支援協議会

令和6年度 第5回就労支援部会 会議録

日時 令和7年2月7日（金）10:00～12:00

場所 乙訓保健所 講堂

出席者 13名

就労移行支援事業所ステージ、しょうがい者就業・生活支援センターアイリス（2）、乙訓障害者支援事業所連絡協議会（2）、京都府立向日が丘支援学校（1）、乙訓地域商工会広域連携協議会、乙訓やよい会、乙訓の障がい者福祉を進める連絡会、乙訓保健所福祉課、向日市障がい者支援課、長岡京市障がい福祉課、大山崎町福祉課

欠席者 3名

京都府立向日が丘支援学校（2）、京都七条公共職業安定所障害者職業相談室

事務局 3名

傍聴者 2名

配布資料 ・次第

・庁内実習に関する委員からの意見

・令和6年度 乙訓圏域障がい者自立支援協議会 就労支援部会 活動報告（案）

会議概要

1 庁内実習について

委員 ・庁内実習の振り返りシートを集めている。まだ集められていないところにはもう一度連絡をし、2月中にいただくようにしたい。

部会長 ・来年度の庁内実習については同様の形で続けていきたい。前回、募集する時に実習内容がわかりやすいものがあればということで動画の話が出ていた。実際に作っていただいたが、字幕はあるが説明をしてくれる音声（ナレーション）が入っていないので、入れることは可能だろうか。

委員 ・可能である。

委員 ・先天性眼球振盪という障害があり、見る対象にすばやくピントを合わせることがむずかしい。庁内実習をする力量があっても、紹介動画の字幕を追っていくことができない。そのような障害当事者がいるということも理解いただきたい。

委員 ・目の情報と耳の情報が同時に入ってきて、しんどくなるタイプの人はいないだろうか。

- 委員 ・そこまではわからないが、LDだと文字の習得が難しい人もいる。様々な障害で字幕をずっと追うことが難しい人はいるように思う。
- 委員 ・音声を切れるようにしておいても良い。
- 委員 ・それもひとつの方法だと思う。
- 委員 ・一度、作ってみる。次年度の庁内実習の案内までには間に合うようにしたい。
- 事務局 ・動画には受入機関が映っている。2市1町、保健所の方でも確認をお願いしたい。
- 部会長 ・事務局のYouTubeチャンネルがあるので、そこであげられるか乙訓福祉施設事務組合で確認を進めていきたい。
- ・動画の中で実習、体験、経験、インターンシップ等、似たようなことを指していて、言葉にばらつきがある。そこも揃えていきたいと思う。
- 委員 ・目と耳と両方から入ってくるとしんどい方は一定数おられると思う。文字を作った後で、音声を入れていく形になると思う。音声を入れる前の音声なしバージョンと両方、選んで見られるようにしておけば良いと思う。
- 委員 ・それで作ってみる。心配しているのは文字より言葉の方が多くなる。そのまま読むとずっと話している感じになり、それもしんどいように思う。考えながら作っていきたい。
- ・利用者だけで見ってもらうのは使い方としてどうかと思っている。事業所の職員が一緒に見て、職員も理解しながらやってもらわないと難しいように思う。
- 部会長 ・実習にあたって感染症に関しては拡大した場合、実習は中止になると記載されている。自然災害やその他の状況によっても実習中止になる場合がある。そこに関しては打ち合わせシート、要項にも記載させていただく。前回確認している内容で入れさせていただく。了承いただきたい。
- 事務局 ・資料に付けている「庁内実習に関する委員からの意見」について確認していただきたい。
- 委員 ・うちの事業所では雇用とか関係なく、まず体験をしてみることが体験実習。雇用に関わってきそうな実習をマッチングの実習と使い分けている。庁内実習は体験をする実習というところかどうか。
- 部会長 ・庁内実習は雇用には結びつかないものにはなってくる。体験実習として一般的にわかるだろうか。
- 委員 ・うちも体験実習は体験までの実習をいう。
- 副部会長 ・うちも体験実習と言っている。ジョブパークでも体験実習という言葉を使っている。
- 委員 ・その先はそれぞれで呼び方が違うと思う。
- 副部会長 ・雇用前実習という言い方になるところもある。
- 委員 ・うちは進路実習という言い方になる。結合実習、見極め実習というのも聞いたことがある。体験実習は一致してそうである。
- 部会長 ・庁内実習は体験実習であると整理させてもらう。他のところについてはもう一度見直し、修正していききたいと思う。
- 委員 ・今年の実習希望者だが最初は希望が少なかったように思うが、すべての枠が埋まったのだろうか。
- 部会長 ・大山崎町だけが埋まらなかった。
- 委員 ・昨年度に引き続き、数の推移を振り返って総括が必要だと思う。

それに関わり当初、庁内実習の行政機関での受け入れの場を増やしていこうというのがあった。それは継続して検討していき、お願いもしていかないといけないように思う。

今年度の総括になっていくと思うが、その辺りの受け入れ側の見通しを聞かせていただきたい。

部会長 ・今年度も色々協力いただいた。実習受け入れ側の方と打ち合わせをするのでオーダーメード的な実習内容を考えてもらっている。本人が集中力をもってやれるかを見極めたうえで、いくつか仕事を出してもらっているところがある。マッチングしていく中で当初予定していたもの以外のものを提供いただくこともある。その辺の方針は変わらないでやっていただければと思っています。

委員 ・障がい福祉課が庁内実習の入口となり調整等をしているが、障がい福祉課だけでは提供できる仕事の範囲や経験を積んでもらえる内容の種類も狭まってくるところがある。引き続き庁内で周知しつつ、他課との接触機会を増やしつつという取組はしていきたいと思っている。

部会長 ・申込者の推移に関しては、対象となる人が自事業所にいない。庁内実習が何かというところ。庁内実習をした後の次の先がわからないのに次に進みにくいという点については乙訓障がい者就労支援ネットワーク「たけのこ」(以下、「たけのこ」という。)で実習の相談もできる。

副部会長 ・動画を作ったのも庁内実習のイメージがつかない、何をしているかわからない等の意見を受けて作成したところがある。次年度もそれを踏まえたうえで案内等を広めていければと思っている。「たけのこ」でも次回の実習については、その方が次の企業実習を望まれる場合もあれば、通っている事業所で次の課題を見つけられる場合もあり一概ではない。望まれる場合はお伝えしていきたい。

2 就労継続 A 型、B 型の基本情報の集約について

部会長 ・乙訓圏域にある就労継続支援 A 型、B 型(以下、就 A、就 B という。)の情報が全て集まったと聞いている。活用方法については使ってみてどうか確認していきたいと思っている。

委員 ・これをどう活用していくのか。次の学習会にも関係してくると思う。この基本情報を元に、月に 1 回、決めた時間に Zoom を使い、事業所の中を紹介しながら見ていく形で、自由に参加しやすいような学習会という形が考えられないかと思っている。

部会長 ・あっても良いように思う。乙訓圏域に障がい福祉の関係者が加盟している色んな団体がある。今年度そこでやっていることがお互いの事業所を知ろうみたいなことをやっている。「たけのこ」でもお互いのことを知りましょうというので次年度、事業所見学を計画している。目で見たい。文字以外のものが知りたい。お互いの事業所を知らないといけないということが際立ったように思っている。

委員 ・それも効率が悪いと思っている。乙訓障害者支援事業所連絡協議会(以下、乙障協という。)があり、就労支援部会があり、「たけのこ」があり、他にも色々ある。個々で色々な取組が出てきたのであれば包括的にできないのだろうか。共通認識するために個々でやっているものをまとめてできれば、個々のネットワークやそれぞれの団体でやっている事業が単発で終わらないように思っている。

委員 ・先日の学習会は共催でできたので良かった。2 つの団体が同じ方向を向くというところで意識がシェアできる。交流会等も共催等で一緒にできれば段々とブラッシュアップされていくよ

うに思う。

委員 ・先日の乙障協の交流会は自立支援協議会に協力いただき、加入していないところにも案内を出すことができた。未加入の事業所が6件ぐらい来てくれた。加入してくれるところもあった。知らないところと繋がれて良かったという意見があった。加入料を払ってやっているところもあり、無料ではかりもやっつけられないので難しいが、皆を巻き込めたら良いなと思う。

部会長 ・何を知りたいかにもよるとは思う。色んなところから声がかかると、事業所としてはどれを優先して取り組んだら良いのかとなってくる。ネットワークがいくつもある中で役員同士で話し合い、同じようなことでやれそうなものがあればできれば良いように思う。色んなところで、こういった話が出ていたことはお伝えできると思う。

委員 ・京都市内の同友会がやっている CoCo ネット会議に出ていると、この概念がしっくりくる。ソーシャルインクルージョン、世の中の困りごとを持っている人達みんな包括して、似たようなところにたどり着く。就労を軸にして、生活を立て直すというようなどころから、乙訓も個々にやっていることがまとまれば、そうなるように思う。この就労支援部会のあり方もそろそろ変化していき、庁内実習のプロジェクトと交流をメインとしたプロジェクトを軸にして残し、メンバーはそこだけの取組に協力する形にしていくとか、その土壌ができてきたように感じている。

部会長 ・そのような意見も参考にできればと思う。基本情報ができたので、誰でも閲覧できる状況にまではもっていつている。企業側からも色んなネットワークがあり、色んなところから声掛けをいただくがよくわからないという声も聞くので、就労に関するところだけでも年に何回も声がかかるよりは一括でいけて企業の参加も良くなるのであれば、それも良いように思う。

副部会長 ・集約した情報を役所の窓口で置かせてもらったり、ホームページにあげるというのはいつぐらいからになりそうだろうか。今後、更新は半年に1回ということになっていたと思う。

事務局 ・年度中にできればと思っている。

3 学習会について

部会長 ・「たけのこ」と共催で行った学習会は52名の参加だった。目的は就労支援についてのネットワークがあることを知るといことで、お互いを知ることが目的であった。目的の達成具合等、何か意見があれば聞かせていただきたい。

委員 ・行き詰まった感があった職員が圏域にこういうネットワークがあり、皆が同じようなことに向かって目指しているというところに触れて元気が出たようで、元気に働いている。出て行くことで、就労支援をしていて悩んでいるのは自分だけではないことがわかって心強く思ったようで、参加できて良かったと思っている。

委員 ・後半のグループワークで一緒になった方から、大阪の就労支援の状況について、大阪障害者雇用支援ネットワークや全国障害者雇用事業所協会が開催する規模の大きい交流会や雇用のためのマッチングの場があると聞いた。京都でもそのような場があればと思う。

委員 ・京都はその中間的な役割をするのがジョブパークになるのだと思う。ジョブパークの力が及ぶ範囲が、京都は南北に長いので南の方には強いが、北の方は薄いところがある。北の方はハローワークが中心になって動いている。そこは労働行政が主導権を握って南北を繋ぎ、就労のネットワークを作ることは必要になってくるように思う。

- 委員 ・NPOの法人と中小企業同友会が関わっていると聞いた。京都府も合同説明会を毎年している。それと同様のことを大阪でもしているが京都府と大阪府のボリュームの違いを冊子で見たことがあり、大きな格差があった。
- 委員 ・ひとりひとりの特性に合わせてできているのかが気になった。
- 委員 ・京都独自のものを生み出さないといけないものだと思う。地域性を持ったネットワークの方が京都には合っているように思っている。
- 部会長 ・就労ネットワークを作っていく段階の中である。協力いただいている商工会から、何か意見等はあるだろうか。
- 委員 ・自立支援協議会があること自体を事業所等は知らない部分が多々ある。こういう活動をしているというのが何かあれば良い。チラシとかQRコードでホームページを見れる形だと関心のある方は見てくれると思う。その中で協議していることを知ってもらえる。庁内実習や体験実習にもゆくゆくはつながっていく可能性もある。逆に受け入れようと思ったらどうしたら良いかの相談も入ってくる可能性もある。こういう組織であること、こういうことをしていきたいということが伝わるようにできれば一番良いと思っている。
- 副部会長 ・以前、同友会の方から乙障協と「たけのこ」と自立支援協議会がどういう関係性で、誰がどこに所属し、どういう役割なのかを明確にしてほしいということでもまとめたものがある。そちらを2市1町の商工会にも渡したいと思う。
- 部会長 ・学習会については交流の場という意味でも続けていきたいという意見がある。会場がグループワークをするには狭かった。事例報告の後にグループワークがあり時間的にもタイトでボリュームが大きすぎたという意見はいただいている。学習会の場で色々な事業所の方と出会うことが励みになっている人もいるようで、こういう企業があって、企業の中でも色々な考え方があることを知るという意味でも学習会は大きいものだと思っている。
- ・学習会のまとめについては修正したものをまたお渡ししたいと思う。
- ・学習会について良い取組なので当日参加されていない方にも広くわかっていただくために、動画による記録の提案をいただいていた。部会の中で進めていかないといけなかったが整理できていなかったのので、今回は動画の撮影はできなかった。今後、学習会等をする場合に動画での撮影やどういう風に残していくのかの確認をしようという形で開催していきたいと思っている。
- 委員 ・提案させていただいたが、動画による記録にこだわっているわけではない。ただその時、就労支援部会委員の当日参加者が8名という状況だった。この部会委員は16名。とても残念に思い、後日欠席された方にも動画視聴で共有していただきたいという思いがあった。
- 事例発表という学習会は過去に1度あったぐらいで、昨年も事例発表ではなかった。以前から、事例が一番大事だということは度々この部会で意見として述べている。就労に至るステップは個別性が高く、事例を聞かないと就労支援の実態が当事者にも支援者にもわからない。そこに出てくる関連機関がこういう風に関わったということがわかるからこそ学習になる。できるだけ良い事例、良いモデルを広めていきたい。今回、「たけのこ」との共催でそことも調整をとりながら本人、関係者の承諾をとるということで動画撮影はむずかしかった。動画撮影できなかったこと自体にはこだわっていないが、きちんと内容を記録し、どう周知していくかということも、こういう事例発表の研修を続けていく中で考えていただきたいと思っている。

- 部会長 ・ どういう形で残していくのか。今回は紙ベースで残すことになったが、動画なのか音声なのか。参加できなかった人にはどう広めていくのか。
- 委員 ・ 音声は聞き続けるのがとてもしんどい。だから動画だと思う。映像があると見やすく聞きやすくなる。
- 委員 ・ 発表する方は発表だけでも緊張するのに、動画を撮られているとどうなるのかなとは思っている。
- 委員 ・ そういう問題もあると思う。
- 部会長 ・ そういうことも含めたうえで、学習会の企画を今後進めていければ良いように思っている。こういう意見があったことを承知いただければと思う。
- 副部会長 ・ 2月17日の「たけのこ」の全体会で、学習会の中での事例発表の時間が短すぎたのもう少し話が聞きたいという意見があった。その関係で2月17日の「たけのこ」の全体会で発表の続きをしていただく予定になっている。そのうえで参加者の方との意見交換、次年度の「たけのこ」について要望等を出していただければと思っている。参加いただければと思う。
- 委員 ・ 参加できなかった立場としてお話をさせていただきたい。参加できなかった理由に時間帯の設定がある。この時間帯だとまだ仕事をしている。日にちもタイミング的に悪かった。高等部3年生の進路決定ができてきて、行政に区分をとってもらっているタイミングである。1、2年生の体験実習がちょうど同じ時期に開催される。仕事のスタートが17時になる。事業所サイドとしてはこの時間の方が動きやすいのだと思うが、行政サイドからも委員として7名出ているが、どこのラインをとっていけばうまくいくのかというのは根本的な課題になるように思っている。他圏域ではどうしているのか等、そんな情報をとっていただければと思っている。
- 部会長 ・ 時間帯や日程調整はどこに寄せていくかということになる。今回は企業に寄せた形でさせていただいた。100%皆が合う時間帯はないと思うので、その時にまた考えていきたいと思う。意見があったことは参考になると思う。

4 次年度の取組について

- 部会長 ・ 今年度一番初めに就労支援部会でこういうことをやるということに関してはやりきっている。庁内実習もだがお互いの情報を知ることに関して基本情報の集約ということになっている。支援力をあげるところでは学習会というところだった。次年度以降について、障がい者の就労に関するということにはなるがこういう場で協議を進めていかないといけないようなこと、例えば前回出ていた普通校に進学されてなかなか就職がうまくいかず、福祉的就労に結びつかず苦労されている方がどうなっているのかという話も出ていたと思う。
- 委員 ・ 一般就労に向かっていくところでは何らかの福祉での働き方の場合、就労選択支援が入ってくる。1年間の猶予はありそうだが、令和8年度からは絶対に実行となると一般校への周知等を進めないと、卒業時点で着地点無く、そのまま彷徨って一般就労したのは良いが障がい理解がお互いに、自己理解も進んでいない中で悩んでいるような気がする。5年後ぐらいに困りごとが表面化するかと思うと、高校にアプローチをかけておかないといけないように思っている。近場の高校や短大、大学等とは何らかの連携を図っていった方が良いと思う。
- 部会長 ・ 手帳の取得や年金を考えている等が出てくれば福祉就労の支援にのせられるのだが。
- 委員 ・ 就Aは制度上は手帳がなくても医師の診断書で就労は可能である。そのラインで精神的な不

全を防げる方の母数が増えるように思っている。就労選択支援事業が始まる中で就労選択支援は福祉をスリム化しようとしているように思う。

委員 ・障がいがある人であっても就労してほしいという思いなのだと思う。就 A、就 B で守られている人、そこで生活することが一番望ましい方というのは絶対にいる。就労選択支援は逆にそこを守れるように思っている。就労選択支援はこの人は一般就労が不適切であると逆に言える立場になる。そこをしなければ生活介護の人があふれたり、在宅支援も認められているので就学猶予みたいな形で皆が家にいるようなことにもなってしまうかもしれないところで危機感を持ちながら、でも制度はできたので逆手にとってできないかなとは思っている。

部会長 ・就労選択支援という新しい福祉制度が始まることによる色々な意見が出ている。始まっていないからこそ障がい者就労がどうなっていくのかという不安感がある中で、それをどういう風に情報を知って、学んでいき、良い支援に繋げていけるかモヤモヤとしているのだと思う。そこを知る機会、どう制度設計していくのかはどこかがやらないといけないとは思っている。

・自立支援協議会が制度やどういうものが地域の福祉にとって必要なか協議する場ではある。新しい制度についても乙訓バージョンを作っても良いというところがあるので、どういう運用の仕方が良いのかを協議することは次年度必要で課題として出てきたように思っている。

委員 ・同じような組織がたくさんあるというような話も出ていたが、行政が入っているのはこの部会になる。それは大事なことで、行政が主体で就労支援部会をやっているという形になると、より住み分けができるように思う。

部会長 ・新しい制度が生まれた後に障がいのある方の就労について、それをどういう風に作っていくのかを協議する場は必要だというのが皆の意見だと思っている。

・庁内実習については引き続きになるが、意見として出ていたプロジェクトという形にしてそれだけを協議する方が動きやすいようにも思っている。就労支援に関わる人達の質の向上、支援の向上というところで引き続きそれを取り組んでいくということになってくると思う。

・木田委員の意見に関しては意見として出ていたということで記載できるかと思う。

委員 ・それをどうしていこうかという話ができるのはこの場になる。就労を失敗した人をどうしているのか等に目を向けられるのもこの部会の強みのように思う。

部会長 ・就労支援部会の取組として、新しい就労に関するところから出てくることは動向や制度設計について注視していく形になると思う。

5 今年度の活動報告について

※参考資料：令和6年度 就労支援部会 活動報告（案）

部会長 ・今いただいた意見等を文書にまとめて今年度の活動報告を作っていくことになる。

・「4 今年度の活動」について、意見をいただきたい。

委員 ・実数が書かれていないが庁内実習の実数や集約した事業所の数等は載せないのだろうか。

部会長 ・庁内実習については資料としてそちらの方で数を載せている。学習会についてはまとめを載せることになる。

委員 ・「(3) 福祉就労から一般就労に向けて」のところ「圏域の一般就労へ繋がった」とあるが、就労先が圏域内のように思ってしまったので表現を変えた方が良かったと思った。

- 委員 ・「一般就労に繋がった圏域の」としてはどうだろうか。
- 部会長 ・この内容で文字の間違い等を修正し、「5 次年度の課題と方針」を完成させたものを部会員にメールで送らせていただく。確認をお願いしたい。
- ・今年度の就労支援部会は今日が最後となる。一年間協力いただき、ありがとうございました。